



報道機関各位

国立大学法人 熊本大学

## 神野大光展—書と篆刻の世界—のご案内

本学教育学部の神野雄二教授（号 大光）が、熊本市現代美術館において個展を開催中ですのでご案内いたします。

神野教授は、東京学芸大学書道専攻科・筑波大学大学院芸術研究科を修了後、東京、広島で教鞭をとり、2003年に熊本大学に着任し、2008年より教授に就任しています。書の教育と作品制作を両立し、学術面においては、篆刻の研究を行って著書を刊行し、書団体・学術団体においては要職に就くなど、大変精力的な活動をしております。尚、公立館での個展は初の機会となり、個展自体としても20年ぶりの開催となります。

本展は、神野教授のこれまでの研鑽の成果を発表するもので、多彩な才能のあらわれの中心となる篆刻を中心に、オリジナルである篆刻では、「不定形篆刻」・「非文字篆刻」、書では、「歴史数字書」（広島・長崎への原爆投下の年月日などの象徴的な年号を書すもの）や、古典の臨書等約50点を紹介いたします。詳細については別紙をご覧ください。

つきましては、本展の取材方よろしくお願ひ申し上げます。

### 【本件お問い合わせ先】

熊本大学教育学部教授 神野雄二

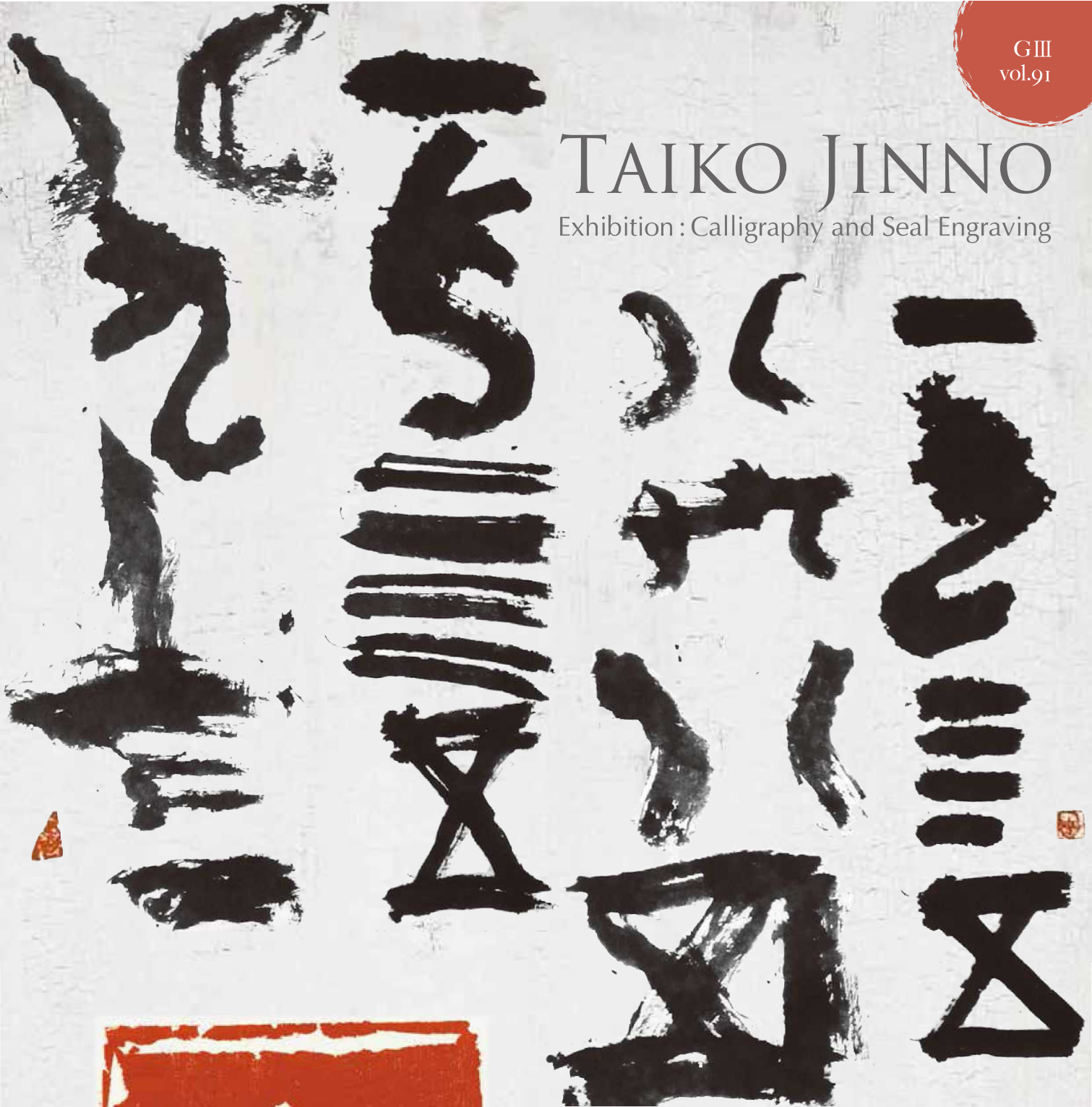
電話 096-342-2585、携帯 090-7993-5993

E-mail: yjinno@educ.kumamoto-u.ac.jp

GIII  
vol.91

# TAIKO JINNO

Exhibition: Calligraphy and Seal Engraving



《広島・長崎》(部分) 2006年 各74.9×40.3cm 墨・紙、軸装  
《土牛》(部分) 1991年 31.7×22.3cm 印泥・紙、額装

## 神野大光展

— 書と篆刻の世界 —

2013.5.11(Sat)-7.6(Sat)

入場無料

開館時間：10:00～20:00 休館日：火曜

会場：熊本市現代美術館 ギャラリーⅢ

主催：熊本市、熊本市美術文化振興財団

熊本市現代美術館 CAMK  
Contemporary Art Museum, Kumamoto

\*熊本市現代美術館のギャラリーⅢ(GIII)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです。

神野大光展  
—書と篆刻の世界—



《FUKUSHIMA》  
2012年 137.7×34.1cm  
墨・紙、軸装



《広島・長崎・沖縄》  
2010年 137.0×33.5cm  
墨・紙、軸装



《峠三古詩》  
2008年 134.8×68.3cm 墨・紙、軸装



《HIROSHIMA・NAGASAKI》  
2006年 31.2×21.8cm 印泥・紙、額装



《龍飛鳳舞》  
1993年 各 137.0×67.9cm 墨・紙、軸装

※全ての掲載作品は作家蔵

■略歴

1954年 愛媛県新居浜市生まれ  
1978年 東京学芸大学教育学部特別教科  
教員養成課程書道科専攻卒業  
1979年 東京学芸大学教育学部書道専攻修了  
1981年 東京都立五日市高等学校非常勤講師  
1983年 筑波大学大学院修士課程芸術研究科  
美術専攻修了  
1985年 中央美術学園書道造形科非常勤講師  
白梅学園短期大学教養科非常勤講師  
1989年 国学院大学文学部非常勤講師  
1999年 東京学芸大学教育学部非常勤講師  
2000年 広島文教女子大学人間科学部助教授  
2003年 熊本大学教育学部助教授  
2004年 尚綱大学文化言語学部非常勤講師—現職  
2005年 熊本県立大学文学部非常勤講師—現職  
2008年 熊本大学教育学部教授—現職

■著書・作品集

神野雄二・高畑常信(1984)『篆刻の技法と鑑賞』明徳出版社。  
神野雄二(1985)『清代書道史の研究—鄧石如を中心として—』中央美術学園出版局。  
神野雄二(1988)『高美蓉の篆刻』木耳社。  
書道ジャーナル研究所(編)(1993)『よくわかる書の常識』同朋舎出版。  
杉村邦彦(編)(2002)『中国書法史を学ぶ人のために』世界思想社。  
書学書道史学会(編)(2005)『日本・中国・朝鮮書道史年表事典』菅原書房。  
書道ジャーナル研究所(編)(2011)『増補改訂版 基本五体字典』菅原書房。  
神野雄二(2013)『神野大光の世界—書・篆刻作品集—』創想社出版。

■所属

全国大学書道学会(理事)、書学書道史学会(諮問委員)、全国大学書写書道教育学会  
会員、全日本書写書道教育研究会会員、日本蘭亭筆会(国際理事)、全九州大学書  
写書道教育学会(理事)、熊本大学教育学部国文学会(幹事)、熊本県文化懇話会・  
熊本県文化協会会員

■個展

1990年 不離展(連立個展)(田中八重洲画廊、東京)  
1991年 第1回神野大光書展(ArtSpace88 Kunitachi、東京)  
1992年 第2回神野大光書展(ArtSpace88 Kunitachi、東京)  
2013年 神野大光展—書と篆刻の世界—  
(熊本市現代美術館、熊本)

■団体・グループ展

1980・1990年 不離展(田中八重洲画廊、東京)  
1983・2005年 書潮展(鳩居堂画廊、東京)  
1986年・現在 全国大学書道学会展  
1990年 日中書潮書法交流展(上海美術家画廊、上海、中国)  
1996年 日中書潮名作展(北京市労働人民文化宮、北京、中国)  
2004年・現在 尚綱大学書道展(熊本県立美術館分館、熊本)  
2004年・現在 国際蘭亭筆会書法展(中国・韓国・日本)



制作風景

わたしたちの呼吸

神野の、最も荒々しい生命の猛りは、歴史数字書<sup>1</sup>に表れている。1989年夏、丸木位里・俊の作品群との衝撃的な出会いをきっかけにして始まった歴史数字書シリーズは、《広島・長崎》シリーズ、《広島・長崎・沖縄》シリーズと、書と篆刻で展開されてきた。

そこに書かれるのは数字のみである、「一九四五八六八一五」、「一九四五八九一一二」、「一九四五六二二三」。

臨書のうち「意臨」とは、「筆跡というものは、筆者の人格の表れだから、剛健とか温和とか沈着とか、書者の精神的要素の味わいをふくんでいる。それを学びとる」<sup>2</sup>ものとされるが、神野の歴史数字書に表れるのは、大音声の呻き声である。墨色の呻き声は、敵や無知の者へ向かって、迷いのない力強い勢いに乗って吐き出される。朱色の呻き声は石印に深く刻まれ、浮ついた忘却に対し幾度も厳格な警鐘を鳴らす。

神野に書を志すきっかけを与えた彼の父、神野雲山は「書は私達のものであり、書はその人の心である。それは現代の呼吸の表れであり、美もまた私達の心から生まれるものである」<sup>3</sup>と言葉を残した。

神野の書もまた、私達のものであり、その書は私達の呼吸であると言えよう。

熊本市現代美術館主任学芸員 富澤治子

註

- 1 「歴史数字書」とは神野自身が命名した。この呼び名の初出は、神野大光「『歴史数字書』という取り組み」、『書道美術新聞別冊 千書万香』第6号、美術新聞社、2011年8月、28頁。
- 2 江原利津子他編著『書道資料集 改訂新版 書の世界』、中教出版、2003年、9頁。
- 3 神野大光「師恩(9) 慈父神野雲山の人と書」、『書道同人誌 永和』122号、2010年、5頁。

会期中のイベント

アーティストトーク 入場無料

- 日時 5月25日(土) 11:00～12:00  
会場 GⅢ 展示室内

ワークショップ「篆刻」を楽しむ 参加費無料

- 日時 5月25日(土) 13:30～15:30  
会場 キッズファクトリー  
講師 神野大光(出品作家)  
アシスタント 熊本大学学生有志  
定員10名 ※対象 小学生～大人まで(事前申込制)  
持ちもの 特になし(作業しやすい恰好で)

石材に文字や画をかき、印刀で刻し、用紙に印泥を付けて押します。落款を入れて完成です。

作品は展覧会会期中、館内に展示します。

\*ワークショップ参加者は、必ずアーティストトークにも参加のこと。

\*篆刻には印刀を使用します。刃物を使用しますので、保護者の方は、児童の参加の申込時に、適切な判断とご検討をお願いします。

お問い合わせ：熊本市現代美術館(TEL 096-278-7500)

熊本市現代美術館 CAMK  
Contemporary Art Museum, Kumamoto

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3びおれす熊日会館3階  
Tel.096-278-7500 fax.096-359-7892 http://www.camk.or.jp